

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4795500042		
法人名	新正クリーンサービス		
事業所名	認知症対応型共同生活介護グループホームみなみ		
所在地	沖縄県宮古島市平良字下里3107-364		
自己評価作成日	平成 30年 11月 14日	評価結果市町村受理日	平成31年4月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/477/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kanji=true&amp;liqvosvoCd=4795500042-00&amp;PrefCd=47&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/477/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kanji=true&amp;liqvosvoCd=4795500042-00&amp;PrefCd=47&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	平成 30年 12月 14日(金)		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

安全で健康的な毎日を送ると同時に集団生活の中で他者とのコミュニケーションを図ったり、ご家族も気軽に訪れやすいアットホームな環境です。利用者それぞれの個性を尊重しながら、より快適に過ごせるよう、ICT(情報通信技術)の活用に注力し、職員の経験歴に関係なく行き届いたケアを心掛けています。(朝日新聞 2018年9月16日 / 『社会福祉』書 2018年 10月 第133号 記載)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は地域の中に溶け込み自治会の行事に、積極的に参加し、事業所の行事に来ていただいたり、交流している。近所の元気な高齢者も時々声をかけてくれたり、近隣の幼稚園と小学校から子供たちが気軽に遊びに来ている。広い敷地内を利用者は自由に散歩している。開設時の理念を4年前に見直し、1年前に代表者が変わったが、家庭的な雰囲気、利用者の尊厳、地域との交流の3点を大事に、そのまま継続している。災害対策や運営推進会議に本人や家族、地域住民の代表や行政も参加し意見交換が活発に行われている。食事は外部の宅配食から施設内調理に切り替え、地元の食材を取り入れた手作りメニューで栄養管理にも注意をしながら提供している。こうすることで個人のその日の調子に合わせた、食事を提供することが出来ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が、いつでも見える場所に理念を掲示している。月一回の会議でも理念に則ったサービス提供について話し合い共有している。	開設時5項目あった理念を4年前に3項目に見直した。1年前に代表者が変わったがそのまま継続している。理念は事業所のみやすい所に掲示し、職員は理念の共有と実践に努めている。家族には入居時に説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の敬老会、小学校の運動会を見物したりと、つながりを深めている。近隣の幼稚園の交流会や、行事の際にも他事業所から施設に来て頂き交流を深めている。	地域の敬老会には積極的に参加し、近くの元気な高齢者も時々声をかけてくる。隣に幼稚園と小学校があり、いつでも遊びに来てくれる。小学校の授業のひとつ「町たんけん」の受け入れもしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会などを利用しながら地域の人々に向け発信しており、適宜利用者も交え意見を求めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月に一回開催し、情報交換やサービスに基づいた実践記録、利用者の状況について多方面に意見を求めて協力体制を作っている。また、写真などを活用し、日々の交流の様子や行事を紹介している。	運営推進会議は定期的に年に6回開催されており、利用者と家族、地域代表、知見者、行政、同業者も殆ど参加している。ICTの取り組みについての情報収集もしている。	「ICTの活用」に関して、職員の実践状況やその効果について関係機関等に発表をし、職員のモチベーションを向上させることはもちろん、事業所の評価を上げるためにも実行することを期待したい。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者にも運営推進会議に参加して頂き、情報交換している。分からないことがあるときには、行政に直接足を運び意見や助言をいただいている。	徹底的に利用者の見守りを図り、身体拘束をしないケアを行っている。毎月の全体会議の中で身体拘束の勉強会をしており、日々のケアに活かしている。又、「ちょっと待って」の勉強会も併せて行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者のその日の気分や状態を考え、散歩やレク、コミュニケーションを図るなど安全性を考慮した対応を行っている為、拘束はしていない。また職員間で見守りの徹底を心掛けている。	日々のケアの中で職員同士も見守りあい、虐待を見過ごさないように注意を払っている。毎月の全体会の勉強会においても毎回取り上げ、虐待の防止に努めている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	日々の業務中だけでなく、定期的に職員会議や施設内研修にて虐待防止について話し合っており、日々利用者の立場となって望ましいケアを徹底している。	利用者の意見は、日々のケアの中で聞いている。ご家族には、面会時や各行事に来られた時、又、利用料金の毎月の支払いやおむつ代を直接持ってきてもらう等、ご家族に出来るだけ多く足を運んでもらう工夫をしている。そして、その都度ご意見を聞くようにし、よりよいケアに活かしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	月一回権利擁護の方と面談を行っている。また文書などで職員への理解を得ている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはご家族と面談を行い、十分な説明や情報提供を実施し双方の理解及び合意のもとで契約を締結している。	/	
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が訪問する機会(運営推進会議、各月支払い、面会時、誕生会参加等)の折に面談し本人を交えて報告、相談を行うようにし、運営に反映させている。また、急を要する内容であれば施設からご家族へ連絡発信をして要望があればすぐに対応できるようにしている。	利用者の意見は、日々のケアの中で聞いている。ご家族には、面会時や各行事に来られた時、又、利用料金の毎月の支払いやおむつ代を直接持ってきてもらう等、ご家族に出来るだけ多く足を運んでもらう工夫をしている。そして、その都度ご意見を聞くようにし、よりよいケアに活かしている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の職員ミーティングの機会を設け、情報の共有や職員の提案を実践し、結果について話し合いを行いながらより良いケアの向上に努めている。また、ご家族からの要望も反映させている。	毎日の申し送り時や、毎月のミーティングの際に職員の意見を聞き、よりよいケアの向上に努めている。職員の意見により、玄関に「手指消毒のお願い」との職員手作りのイラスト入りが可愛らしくおかれている。又、職員の要望により、洗濯機や乾燥機をすぐに購入してくれた。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各々の意見を傾聴できる環境作りを心掛け、常に意見を反映させ改善に取り組んでいる。	代表者が変わったときに給料水準の見直しをしてベースアップを行った。事業所内の清掃を週に3回「就労支援センター」に依頼しているので、常に事業所が綺麗で働きやすい。	

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の能力及び適正向上の為、施設内外研修や個人への指導を行っている。 また、ICTを活用し利用者の気づきを共有、職員の経験の差をより縮めて均一なケア向上の為にミーティングを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	不定期にはあるが、グループホームやデイサービスを相互に訪問し、職員も交流を図っている。以前利用者だった方と病院受診時再会し、こちらから訪問し再度交流した事例もある。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に面談し、本人の考え方を尊重しながら真摯な交流に重点を置いている。また、不安の受け止めや傾聴等、日々のケアから得た情報も、職員間の申し送りなどで共有し周知している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時、本人が困っていること、できることやしたいこと、家族からの要望等を施設側とすり合わせて実行、対応している。また話しやすい雰囲気作りにも努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応についても、情報交換することで見極め、互いの協力体制を確認し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の体力や身体機能に合わせて負担のない程度に家事の分担作業を行ったり、利用者同士で協力できるようサポートしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	医療受診の際や、本人に変化があった場合等、家族に情報共有し、必要な際はご協力頂いている。また、受診後の変化や経過も報告している。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	母の日、敬老会、幼稚園交流会など、大きなレクレーションの際は必ずご家族に声掛けして、訪問していただける機会としている。また、本人が馴染の場へ出向く際は、職員や家族が対応している。	日曜日に教会のミサに参加する利用者がいて、その支援をしている。シスターが事業所を訪問することもある。事業所の行事(母の日、敬老会等)には家族に声掛けをして馴染みの人や場所との関係継続を図っている。	

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルを囲んで交流をする憩いの時間をつくり、利用者同士も円滑な人間関係を築きながら共同生活ができるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	商店、病院受診などであったときは近況を聞き相談に乗ったり面会に行ったりしている。実際に他施設に面会に行き、旧交を温めたりということもある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	相談があるときは面談したり本人の個室で傾聴し相談に乗ったりすることも日常では見られ、改善に向けて検討した例もある。また、意思表示が困難な場合は本人の日々の動向から要望を汲めるよう、職員間で話し合いを行っている。	「友達に電話をしたい」とか季節の変わり目には「洋服を買いに行きたい」と言う利用者もいて、要望に添って支援をしている。又、本人の要望によっては、担当者会議を開いて検討し、要望に添える工夫をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回のアセスメントやご家族及び本人と日常で接して情報を本人から収集し、日々役立てている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に利用者の状況、行動、パターンを確認し声掛けしている。また、職員間の申し送りを通して日々の変化や気づきを共有している。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の気づきを職員間で共有し、本人のケアや対応の改善に努めている。また、家庭での様子や施設に居る時の印象などを話し合い、家族からの情報もサポートの向上に繋げている。	日々の申し送りや、ケアの中で本人の情報を計画担当者にその都度話している。又、毎月作成しているモニタリングを職員交代で作成し、それぞれの職員に意識付けをしている。家族からの情報も取り入れ、現状に即した介護計画に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や申し送り等で、些細な気づきでも共有できるようにしている。全体会議等で職員(現場)の提案や意見を実践し個別の支援を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の突発的な要求にも、常に柔軟に対応している。(病院、外出、レクリエーション、デイサービス利用等)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣に小学校、幼稚園があるため交流して写真を撮り、関係を作っている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の主治医は基本的に変えず、継続して受診をしている。転院、入院にも対応している。また、定期的な訪問診療にて、利用者の変化や相談にすぐに対応できるようにしている。	主治医の受診については、家族対応を基本としている。 協力医からは1か月に2回の定期訪問診療を行ってもらっており、医療的支援に結びつけている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	他の病院と提携し、訪問診療・看護を受けている。疾病悪化の際も紹介状を書いてもらい、対応している。急変や判断の難しい場合でも、電話や訪問で対応可能である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	上記と併せ、急変や判断の難しい場合でも、電話や訪問で対応可能である。救急搬送の際も各利用者の最低限のデータや症病歴をすぐ持たせられるよう用意している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にある程度の方向性を話し合い、必要な段階には、家族を含め、主治医と十分な話し合いを行い、スタッフ全員での支援に取り組んでいる。	看取りについては、基本的に行わないことで、家族にも理解をしてもらっている。 重度化の長期入居者もいることから、職員は情報を共有しながら注意を重ねて支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時マニュアルを壁に張り出しており、急変時にも速やかに対応できるように備えている。また、月1回の全体会議でもマニュアルを見直し話し合いを行っている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練・消火訓練を行っており(内1回夜間想定)、地域の方にも参加して頂いている。利用者の安全な避難方法を確認し、課題があればその場で話し合い安全向上に努めている。	台風を想定した災害備蓄品については、玄関横の倉庫スペースに発災後3日間は耐えられるように、水、食料が備蓄されている。 年2回の避難訓練を実施し、都度避難方法について職員間で都度確認をしている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	着替えや、排泄の際は周囲に配慮し、さりげなく誘導・対応している。利用者に対する言葉使いも、配慮するよう注意しながら業務についている。適宜内部で情報交換や勉強会も行っている。	プライバシーをテーマにした勉強会を、月1回実施していて、記録も整備されている。 また、本テーマに関する外部研修にも参加し、職員の意識を高める取り組みを行っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりのペースで支援できるようにゆっくりとコミュニケーションを図って傾聴・観察したり、時には本人の意思決定を尊重する為に一歩引いた見守りを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の気持ちやタイミング(体調)に合わせ、入浴、睡眠、食事のパターンを変えたりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容室を利用したり、おしゃれができるよう定期的に支援し本人の好みを最大限生かせるよう、各々関係を形成している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節や、旬のものを取り入れたり、行事ではお祝い御膳、誕生日・節句でも季節感のあるメニューを提供している。利用者それぞれの力に対応して、茶わん洗いや下ごしらえも手伝って頂いている。時々外食をする事で食べる喜びに繋げるよう工夫している。	1年前から外部の宅配食から、施設内調理に切り替え、地元の食材を取り入れた手作りメニューで、栄養管理にも注意をしながら提供している。こうすることで個人のその日の調子に合わせた、食事を提供することが出来ている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各疾病、持病には配慮しながらもカロリーや好みにも配慮している。又、個人記録に水分補給チェック欄を設け一日の水分量が分かるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに合わせた、口腔ケアのチェック欄を個人記録に設け、出来なかった際には何故出来なかったかを記入して、次に活かせるようにし、適宜口腔ケア法をその人に合うように変更する事もある。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の行動パターンを読み対応している。認知症でトイレの位置がわからなくなる利用者には適宜声掛けを行い、できる限り本人持ち込みの下着を使用する事で不快感やおむつ使用を減らしている。夜間のみポータブルトイレ対応の方もいる。	利用者は全員リハビリパンツ着用を基本としており、個々の排泄パターンの情報を職員で共有することで、早目早目のトイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に配慮し、適時の水分補給と食物繊維豊富な食材をメニューに取り入れている。10時・15時にはリハビリをかねての運動や空き時間を利用しての散歩を行い、ストレスの無い生活が送れるように支援している。また、排便チェック表を作成し排便の周期を観察し対応している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な曜日は決まっているが、希望する方にはその時々を実施し、又は拒否する方やその日の体調に応じて、タイミングを見て気持ち良く入浴して頂けるようにしている。特に、羞恥心に配慮し、なるべくは同性介助を行うようにしている。	利用者の個々の希望や入浴パターンに対応するため、入浴時間はいつでもできるように自由にし、その人にあつた入浴ができるように支援を行っている。 また、入浴に際しては同性介助を基本としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースを大事にし、居室で休みたい方は居室で対応。コミュニケーション好きの方へはホールで談話をしたり、個人でも寛げる空間作りに配慮している。 居室の配置を工夫した事で夜間良眠になった例もある。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が分担して三ヶ月に一度担当を決め、全員が個々の薬剤を把握できるようにしている。また薬剤の変化があれば職員間で情報共有している。	3か月サイクルで利用者ごと服薬の担当職員を決めて服薬管理を行い、用法や用量について職員全員が対応できるようにしている。 服薬に際しては、服薬箱に利用者名ごと薬品名を表示し、服薬事故が起こらないようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各々の興味や関心事やできる事に合わせてドライブやレク、家事等へ参加する事で意欲的に生活できるよう支援している。また、本人が元々好む趣味(ラジオ・テレビ等)に対応できるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や日光浴、日用品の買い物をする事で、気分転換を図り、穏やかな生活ができるよう支援している。また、家族行事での外出や外泊の場合は安心した時間が過ごせるよう家族へ本人の状況を共有している。	帰宅願望の強い入居者がいるので、その要望に応えられよう、天気を見ながら外出支援を行っている。 トライアスロンの応援のための外出支援や、父の日には恒例になった知人の中華料理を食べに外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所としてはお金の預かりはせず権利擁護を利用するか家族が管理している。少額のみ本人が使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や親族への電話は本人の希望があれば職員が繋いだり、自らが電話を掛けたりできるよう配慮している。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は常に清潔に保ち、気持ちよく利用できるようにしている。また、利用者が普段過ごすホールでは季節毎に手作りの飾り付けでアットホームな雰囲気作りをしている。	事業所の共有スペースや居室の清掃を、週3回外部の就労者支援団体に委託して行いホールの床等、大変綺麗に整備されている。 この間、職員は清掃の雑務に関わることなく、本来の介護のケアにまわることができ、居心地のよい共同空間作りに取り組むことが出来ている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	開けたホール内で、TV観賞・交流・手作業等、各々が好きな事に取り組めるような空間を提供し、状態に合った対応をしている。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	長年使いなれてきた家具や愛着のあるものをもって来てもらい不安感を軽減している。家族と相談をしつつ、本人の日々の行動パターンを観察しながら、家具の数や位置にも配慮している。	週3回の外部委託の清掃業者により、居室は清潔に保たれていて、いつも清潔をモットーとしている事業の方針を具現化していて、訪問してくる家族も安心して見ていてくれる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのできる事を理解し、その人の 力に応じた行動を尊重し見守り、且つ安全に過ごせるように配慮している。施設内では見通しの良い間取りを活かし職員が臨機応変に対応できるようになっている。		

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	「ICTの活用」に関して、職員のモチベーションがなかなか上がらない。	「ICTの活用」に関して、実践状況やその効果について関係機関等に発表する場を作る。	日々の業務に追われICT活用が手薄になっている現状。職員一人ひとりの活用時間ができる体制を持ち、更に活用意義を見出す事でモチベーション向上を図る。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。